

新任教員紹介

貞光 宮城

工学教育研究センター准教授(特命)
(H31.4.1 赴任)

山口大学とのご縁は、もうかれこれ30年前になります。理学部物理学科に入学して以来ということになります。そうなのです。今とは全く畑違いなのですが、山口大学は私の母校なのでございます。卒業後は、熱に浮かされぼうっとしているうちに英語の道に進むことになりまして、大学院時代を大阪で過ごしました。一度、青森で大学の職を得たものの、またすぐに関西の大学に勤めることになり、以来、京都で暮らしておりました。

この度、工学教育研究センターで拾っていただけることになりまして、長いながい寄り道を経てようやく母校に戻ってこられたという感じがいたしております。

この「母校で教鞭を執る」というのは、何とも感慨深いものがございます。教育実習で、自分が卒業した高校で初めて授業をした(させてもらった)ときのことを思い出します(そのときは英語ではなく物理でございました)。自分が教わる側から教える側に替わって、何だかほんの少し恩師の側に近づけたようで(すぐに天狗になるとまたお叱りを受けますが)心浮き立つものがございます。そしてまた、学生が全員自分の後輩であるということも、ついつい力が入ってしまうところがございます。4月からのこの気持ちが、今や私にとりまして新たな初心となっております。

教育では「語学は実技である」という信念で勤めて参りました。いわゆる「はい、ここ、テストに出ます!」といった授業は行っておりません。授業や試験が終わっても、大学を卒業してからも、使えるようになってもらう、

できるようになってもらうということを肝に命じております。本学の英語教育にご尽力なさってこられた諸先生方の末席に加えていただけの事を本当に光榮に思っております。

そして私自身、後輩学生に負けないう、旧知の新天地で、何ができるか、できるようになるか、教育に、研究に、そして久しぶりの山口での生活に、胸を膨らませております。

Zachary Thomas
Robertson

工学教育研究センター
准教授(特命)

(H31.4.1 赴任)



平成31年4月に工学教育研究センターに着任しましたザッカリ・トーマス・ロバートソンです。生まれはアメリカのテキサス州で、現在家族と一緒に福岡県に住んでいます。テキサス州立大学で日本語を専攻しました。卒業後、ALTとして9年間働き、バーミンガム大学(英国)で「英語教育理論」を専攻し、修士を取得しました。

本学赴任前は、公立学校、大学、企業、市民講座などの様々な環境で、ビジネス英語、英会話、TOEIC対策を教えてきました。多くの教育場面で異なる英語能力を持った生徒に教えることによって、外国語習得プロセスや学習者のモチベーションに対する知識と実践を重ねたと思っています。この経験を生かして、工学部が現在提供している外国語カリキュラムを更に発展させていきたいと思っております。

近年では、社員の英語教育に積極的に取り

組む企業が増えてきています。仕事における英会話能力の必要性はどんどん高まるばかりです。このような状況の中、就職と将来のキャリアのために以前より英語能力に力を入れる学生も増えていると思います。そこで、そういう学生の力になればと思っています。

現在、中級者または上級者向けの「テクニカル・イングリッシュ」と「アカデミック・ライティング」のコースを担当しています。この2つのコースの狙いは、学生に専門的な技術英語の能力を伸ばす機会を提供し、英語を使って人と交流し、工学に関する話題について英語で理解を深める場所が得られるようにすることです。そして今後は、英語教育理論の最新の教育方法を応用しつつ、新しい科学技術の発展についても考慮して、カリキュラムをより進化させていく予定です。

中尾 遼平

社会建設工学科
助教 (特命)

(R1.7.1 赴任)



山口大学では平成31年4月1日より学術研究員として研究に従事しておりましたが、令和元年7月1日より社会建設工学科助教(特命)として赴任することとなりました。

私は三重県津市の出身で、大学進学を期に奈良県にある近畿大学農学部および大学院農学研究科へと進学し、博士後期課程を経て博士(農学)を取得しました。その後、神戸大学大学院人間発達環境学研究科にて、博士研究員として3年間在籍しました。私の研究は、保全生態学または保全遺伝学と呼ばれる分野になります。生物学分野になりますので、あ

まり馴染みのない分野かもしれません。この分野に関わる研究として、生物多様性の3本柱の1つである「遺伝的な多様性」を対象とした希少種の保護・保全に関する研究を行っています。現在絶滅危惧種に指定されている種の多くは、数が少なくなっているというだけでなく、それに伴う様々な課題に直面しています。それらの課題に対して、生態学および遺伝学的なアプローチから解決するための手法を考え、絶滅危惧種の保護に役立てるよう日々研究を行っています。神戸大学での学術研究員時代に出会った環境DNAも、私の研究活動を支える重要な要素の1つとなっており、その簡易的な調査手法から、環境変化に対する生物種の分布の変化など、これまでできなかった大きなスケールでの研究とその発展ができるのではないかと期待しています。

ここまで生物のことばかりですが、生物の生息する環境を整備し、人と生物との関わりを維持したまま希少種を守るためにはどのようなことができるかを考えるうえで、生物学と工学という2つの分野は密接につながっていると私は考えています。山口大学工学部に赴任し、工学分野の先生方と関わる機会をいただけたのは、とてもありがたいことだと思っております。生物系の分野のみでは得られなかった知識や経験が、学問分野を超えたことで、この工学部では山のように得られるのではないかという期待も抱いております。この機会を無駄にすることなく、自身の研究者人生の糧とできるよう尽力していきたいと考えております。

最後になりましたが、教員としての立場になるのは初めてのことであり、皆様にご迷惑をおかけすることも多々あるかもしれませんが、まだまだ未熟で至らぬ点も多いかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどなにとぞよろしくお願いいたします。